

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970400170
法人名	医療法人 景雲会
事業所名	医療法人 景雲会 グループホームあずさ
所在地	〒 406-0014 電話番号 0553-26-4516

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年8月25日

【情報提供票より】平成20年7月5日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月9日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	12人	常勤	12人	非常勤 0人 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	■有(105,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000) □無 有りの場合 償却の有無 ■有 □無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要 明治33年1月0日 現在

利用者人数	18 人	男性	3 人	女性	15 人
要介護1	7 人	要介護2	5 人		
要介護3	4 人	要介護4	2 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 84.6 歳	最低	59 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春日居リハビリテーション病院、雨宮歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月7日

春日居リハビリテーション病院に併設されたこの施設は、2ユニットからなるグループホームである。病院でリハビリを受ける利用者もおり、日ごろ行き来をする中で病院のスタッフとよい関係作りもできている。企業の保養所であった建物を改築し、清潔で明るく、ゆとりのある室内となっている。外部評価を始め、運営推進会議や家族等の外部の意見を積極的に取り入れてこの事業所をよりよくしていきたいという意欲がうかがえる。熱心な管理者やホーム長の下、スタッフが一丸となって利用者に温かい支援を行っている。利用者は百歳を越える高齢の方もいるが、表情も穏やかで、利用者同士会話を楽しむ姿も見られ、温かい雰囲気が感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念を掲げ、地域のボランティアを積極的に受け入れたり、地域のごみ拾いをするなど、地域とのつながりを大切にしたりした取り組みを行っている。また、利用者の金銭管理について、面会時には出納帳に目を通してもらうようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長を中心に、スタッフと話し合いながら自己評価を行った。自己評価や外部評価の意義を理解し、改善できる点は積極的に変えていこうという姿勢が見られる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3か月に1回開催している。活動の報告にとどまらず、事業所の問題点について率直に相談し、具体的、建設的な意見をいただいている。具体的には、食事を職員が利用者と同じものを食べるようにしたことや、ホーム独自に家族へのアンケートを行い改善に活かしていこうとすること、ホーム独自で行う防災訓練について意見を伺ったこと、などがあげられる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所に苦情箱を設けるほか、今年度より家族に対してホーム独自でアンケートを送付し、回収を行った。直接では聞き取りにくい率直な意見も寄せていただくことができた。今後も年1回程度行い、改善につなげていきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩の時にはごみ拾いをし、地域活動につなげていきたいと考えている。また、地域のボランティアや近隣の中学校の職場体験を積極的に受け入れている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームあずさ

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として位置づけられたことにより、これまでの理念を見直し、簡潔でわかりやすい理念を作り上げている。利用者が地域の中でその人らしく暮らしているように支援を行っていくための、ホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を常に念頭において支援を行えるよう、各自ネームの裏に理念と個人の目標を記入し、サービスの実践を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、町の行事にはすすんで参加している。事業所側から積極的に働きかけることで、地域のボランティアの方々による芸術鑑賞会などを数多く受け入れている。また、周辺の散歩の時にはごみ拾いを行い、地域の方々と挨拶を交わすなど、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価の意義を理解し、改善すべき点は積極的に改善に努めている。自己評価及び外部評価の結果を見やすい場所に掲示し、職員や家族が見られるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回、開催している。活動報告のみにとどまらず、具体的な意見を出してもらいながら改善につなげた事例もいくつかあり、サービスの向上に活かすことができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会等には積極的に参加し、顔見知りの関係になるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、利用者の様子がわかるよう写真なども盛り込んだ「あずさ便り」を家族に郵送している。金銭については家族の面会時に金銭出納帳を確認してもらい、押印してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で提案され、家族に事業所独自で無記名のアンケートを行った。普段伝えづらいことも率直な意見として伝えてもらうことができ、今後のサービス提供に大変参考になった。今後も年1回程度行っていき、サービス向上につなげていきたいと思っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限にするために、併設の事業所内の異動は極力行っていない。そのため、利用者や職員のなじみの関係がつけられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の病院で介護に関する研修会が毎月1～2回行われており、職員は交代で参加している。その他、県のグループホーム協会等の研修会にも積極的に参加している。研修の内容をレポートにまとめ、職員間で回覧または伝達講習を行い、職員の質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の集まりには積極的に参加して、他施設との交流を図り、情報交換を行っている。法人内のグループホームとの交流会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前には本人または家族に見学をしていただき、納得してから利用していただけるよう詳しく説明も行っている。新しく来られた利用者について職員もしっかり把握して、できるだけスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の方々を人生の先輩と心得ており、接し方や言葉遣いに注意している。時には料理の作り方や包丁の使い方などを教えてもらうこともあり、勉強になっているという意識を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いや意向を十分に把握できるよう言葉かけやかかわりを持っている。意思疎通が困難な方は、表情や行動から把握すると共に、家族からの聞き取りも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より細かく利用者の様子が把握できるよう、担当を決め、各担当者が介護計画を立てるようにしている。その介護計画を基に全職員でカンファレンスを行い、多角的な面から利用者を捉えるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回ユニットごと、また合同でカンファレンスを行って介護計画を見直すようにしている。計画が日々の日誌と照らし合わせて見られるよう工夫されており、常に計画を念頭に置いたサービスができるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や美容室への外出支援を柔軟に行っている。家族が付き添えないときには受診支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医の受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用開始時に、重度化した場合や終末期について話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や誇りを大切に、プライドを傷つけないようなさりげない声かけや誘導を行っている。個人情報の取り扱いには十分注意するよう、職員に徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の希望を最優先にしている。自室で食事をとるなど、利用者の希望に応じて柔軟な対応も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに利用者と献立を決め、買い物もやっている。食事の準備や片付けも利用者と共に行っている。献立に旬のものを取り入れるなど、食事が楽しいものとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにし、利用者の好むタイミングで入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、気持ちよく入浴していただけるよう声かけや誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯を干すことやごみ集め、自室の掃除など、利用者のもつ力を生かした役割が果たせるよう支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のよい時期にはできるだけ散歩に出かけるようにしている。利用者の希望があれば買い物等の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに入り口を開放し、職員は見守りには十分注意している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の病院が年2回行う防災訓練に参加しているが、ホーム独自の訓練は行っていない。ホーム独自の訓練を行っていく必要性を感じている。	○	様々な災害が想定される今日、日ごろの訓練で利用者や職員の動きを確認しておくことは大切である。ホーム独自での訓練を行い、災害の知らせ方を工夫するなどし、災害に備えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れつつ、野菜を多く取り入れたり栄養のバランスに気をつけながら献立を決めるようにしている。利用者の状態に応じて食材を細かく刻んだり、やわらかく煮込んだりし、食べやすいように配慮している。水分量も十分確保できるよう摂取状況を把握しながら声かけ等をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	程よい広さの居間には座りやすいソファが置かれ、利用者がくつろぐことができる。利用者と共に作り上げた季節を感じられる壁面の飾りなど、温かみを感じられる居間となっている。台所は対面になっていて、利用者と職員が一緒になって料理をしている姿が自然に見えるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に応じてダンスや鏡台、仏壇などなじみのものを持ち込み、居心地のよい居室となっている。窓が広く、適度に明るく眺めのよい居室である。		